

10月16日(日)に行われた平成28年秋期の情報処理技術者試験について、今回2回目の実施となった情報セキュリティマネジメント試験(以下SG試験)の合格発表がありました。試験に関する統計データをもとに、全体の得点分布と合格率関連の情報をお知らせします。

## ■情報セキュリティマネジメント試験(FE)

### [平成28年秋期の情報セキュリティマネジメント試験 統計情報]

応募者	22,186人
受験者	18,630人
合格者	13,105人
合格率	70.3%

試験結果は合格率が70.3%で前回の88.0%から大きく下がりました。しかし、全体に問題が少し難しくなったとはいえ、依然高い合格率だったといえます。受験者の半数近くがIT関連業務に従事していることから、午前・午後試験の合格点60点はそれほど難しくなかったと思われます。

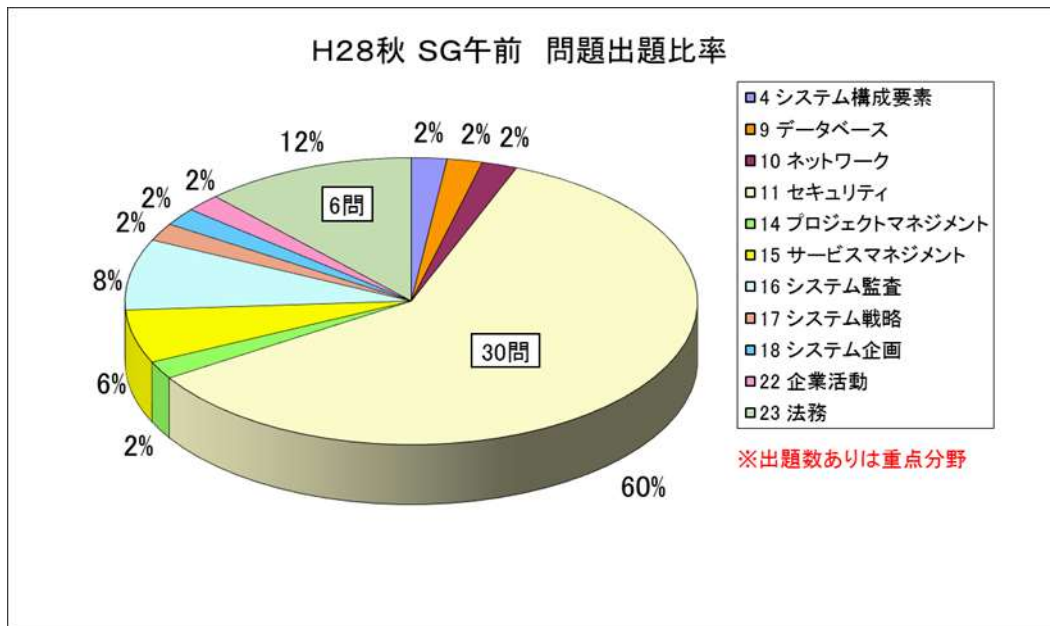
問題の難易度について、発表された統計データから計算した午前試験の平均点の推測値は70.4点(前回81.1点)、午後試験の平均点の推測値は72.8点(前回81.7点)で、それぞれ10点ほど平均点が下がりました。

今回の試験の傾向や特徴を少し細かい内容でまとめると、次のようになります。

### [午前問題]

- ・今回の出題数としては、SG試験の重点分野のテクノロジー(セキュリティ)が30問、ストラテジ(法務)が6問の計36問(約7割)あり、初回の試験と同じでした。その他の出題分野としてはマネジメントが8問(前回6問)、テクノロジーが3問(前回4問、システム構成要素、データベース、ネットワーク)、ストラテジ3問(前回4問)でした。
- ・新試験2回目の実施ですが、過去問題が増え全体の5割ありました。出題された過去問題としては基本情報技術者試験が10問、応用情報技術者試験の過去問が11問あり、応用情報からの過去問が増えたことから、全体の難易度も前回の試験より少し上がったといえます。
- ・他の試験でこれまでに出题されていない新傾向といえる問題は10問ありました。
  - 問2 JIS Q 31000:2010 に示されているリスク対応
  - 問4 JVN(Japan Vulnerability Notes)の説明
  - 問10 情報セキュリティ意識向上の教育における改善が必要な状況
  - 問12 ボットネットにおけるC&Cサーバの役割
  - 問15 SIEM(Security Information and Event Management)の機能
  - 問23 サイバーセキュリティ戦略における五つの基本原則に含まれるもの
  - 問24 スクリプトキディの典型的な行為
  - 問27 ランサムウェアに分類されるもの
  - 問30 コモンクライテリア(CC)と呼ばれる国際標準
  - 問33 ガイドラインで認められている“特定個人情報ファイル”の取扱い

平成 28 年秋期の情報セキュリティマネジメント試験



今回出題されたセキュリティ分野の問題は、前回と同様に技術寄りの問題が少し多かったといえますが、今後も同じ傾向が続くと考えられます。攻撃の種類と内容については幅広く理解しておく必要があります。

〔午後問題〕

今回の午後問題の出題テーマは次のとおりでした。

問	テーマ	内容	難易度
1	オンラインストレージサービスの情報セキュリティ対策	共有権限, 漏洩リスク, トレーサビリティの担保, 組織的対策, 技術的対策	普通～やや難
2	情報機器の紛失	ノート PC の紛失, 初動対応, 回収した PC の不正利用, ログの調査, 二次被害防止	やや易～普通
3	業務用 PC での Web サイト閲覧	プロキシサーバによる URL フィルタリング, HTTPS, トレーサビリティ, マルウェア混入	やや易～普通

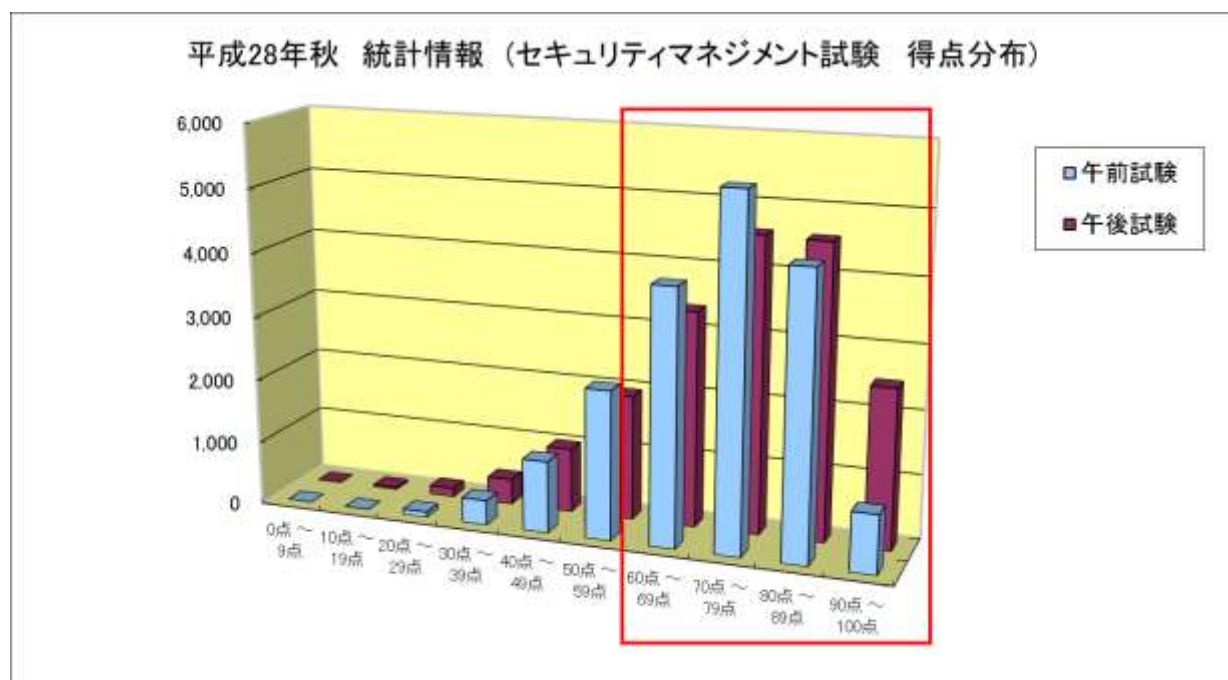
全体に問題のボリュームが前回と同様に多く、1問あたり平均 10 ページ程度ありました。すべて必須問題なので、問題文を根気よく丁寧に読んで解答する必要があります。問題ごとに解答するマーク数が異なりますが、平均で約 10 個の解答マーク数でした。

次回以降も同じ問題ボリュームになると思われませんが、1問に 30 分かけられることを意識して、長い説明文をあせらずに読み、内容をしっかり理解するようにしてください。問題集などの演習を解答時間を 30 分と決めて行い、実践力を付ける必要があります。

試験センターから発表された SG 試験の得点分布をグラフと合わせて示すと、次のようになります。

〔平成 28 年秋期 統計情報(情報セキュリティマネジメント 得点分布)〕

得点	午前試験	午後試験
0点～9点	1	4
10点～19点	3	37
20点～29点	82	137
30点～39点	389	402
40点～49点	1,123	1,007
50点～59点	2,325	1,956
60点～69点	3,965	3,359
70点～79点	5,427	4,582
80点～89点	4,398	4,558
90点～100点	917	2,486
計	18,630	18,528
午前と午後の差		(102)
<b>合格者数</b>	13,105	合格者数との差
午前 60 点以上合計	14,707	1,602
午後 60 点以上合計	14,985	1,880



今回の結果を少し詳しく分析すると、午前試験で合格基準点の60点以上の方が14,707人いて、受験者の78.9% (前回94.3%) になります。前回と同様、受験者のレベルが高かったといえます。また、午後試験が基準の60点以上だった人は14,985人で受験者の80.9% (前回90.8%) いて、こちらもかなり高い率になっていますが、前回試験よりも得点は低くなっています。

#### 【次回試験に向けて】

今回の SG 試験の結果もかなり高い合格率 70.3%（前回は 88.0%）になりましたが、合格者の内訳を見ると、社会人は 73.2%の高い合格率ですが、学生では 33.6%にとどまっています。合格者数は圧倒的に社会人が多いことから、業務で日常行われているセキュリティ対策の基礎知識をしっかりと理解しておく必要があることが分かります。

SG 試験は IT を利活用する立場で業務に従事する人のための試験ということを考えると、出題内容と試験レベルは合っていて、特別に易しい問題ばかりだったとはいえません。次回の試験対策として、過去の 2 回の出題内容を理解し、IPA で公表されているセキュリティ関連のガイドラインや事例を理解しておきましょう。セキュリティの基礎知識の理解と午後の長文問題への対応力をしっかり身につけて受験してください。

